

平成 25 年 10 月 28 日

狭山キャンパスに平成 26 年度 2 学部新規開設（内示）

子ども学部子ども支援学科と看護学部看護学科

学長 木元 幸一

10 月 25 日 18 時文部科学省のプレス発表で新設学部の設置を可とする旨の判定がなされたとの報道がありました。平成 26 年度 4 月から子ども学部子ども支援学科と看護学部看護学科という新しい仲間が増えることになりました。133 年の東京家政大学の歴史と伝統に新しいページが開かれるわけです。どうか在学生の皆さんも歓迎していただきたいと思えます。狭山キャンパスは、西武池袋線稲荷山公園駅の改札口を出て直ぐのところであり、稲荷山公園駅から次の入間市駅の 2 駅間の線路沿いに広がる広大な緑あふれる素晴らしいキャンパスです。新設学部開設と同時に、セミナーハウスも完成しますので是非皆さんも利用してください。

開設される子ども学部子ども支援学科も看護学部看護学科も女性が主体的に活躍できるという本学伝統の自主自律を引き継ぐことのできる分野です。文部科学省と厚生労働省の両方の認可が必要なために、極めてハードルの高い学部設置でしたが、東京家政大学の建学以来の教育理念は、卒業後の活躍も見据えての意義が不可欠と考え、敢えて産みの苦しみを選びました。本学は、卒業時、卒業後もずっと支えていける教育機会を提供できる学園を目指しているのです。

太平洋戦争後本学が青木誠四郎学長のもと、社会が要求する教育だけでなく子どもの発達と要求に沿った理想の教育からスタートした現在の家政学部児童学科及び児童教育学科は、今日、大変大きな成果と高い評価を得て、保育者、幼稚園教諭、小学校教員などの人材養成を担い、日本を代表する乳幼児・児童の教育研究機関となっております。

狭山キャンパスでは、子ども自体に焦点を据えた現代の新たな課題を探求する子ども学部子ども支援学科を開設します。生活環境を含む現代社会の急激な変化は子どもの発達に影響を及ぼし、睡眠などの生活リズムの変調や食生活の乱れを誘い、また、自己肯定感の持てない子どもたちも増えているようです。アレルギー症状を示す子どもたちも少しずつ増えており、健全な発達に困難を感じたり、特別な支援を必要とする子どもたちも僅かずつですが確実に増えてきています。新たな専門性を身に着けた保育者養成、教員養成が望まれていますので、自然豊かな場所で新たな課題の探求と、人材育成を目指します。

看護学部看護学科は、10 年来本学がその設置を待ち焦がれた待望の学部です。附属高校を含む多くの本学志願者からも毎年期待されていた分野ですが、多くの方々の協力により設置認可の運び（内示）となりました。新たな 2 学部は、我が国がこれから取り組むべき課題として国家政策に取り上げられている領域に直接関わってくる重要な人材育成分野で、これからの我が国が成熟し、真に豊かになるためには決して疎かにできない分野です。在学生の皆様も新しい仲間と共に、明日の日本社会の一翼を担う気概を持って、日々頑張ってください。期待しています。